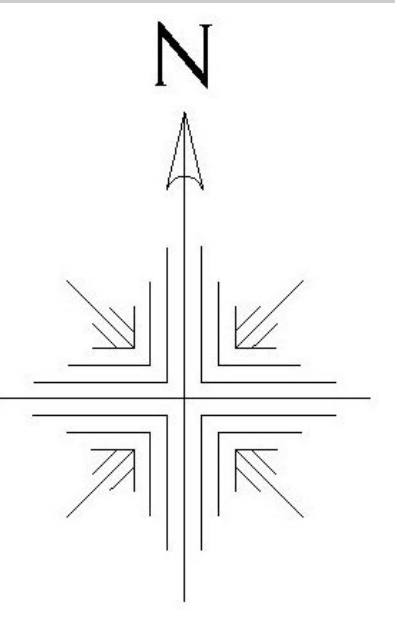


荒川水系 国管理河川からの氾濫を想定した 水害リスクマップ【現況河道】

- 浸水深 50cm（床上浸水相当）以上の浸水が想定される範囲を表示 -

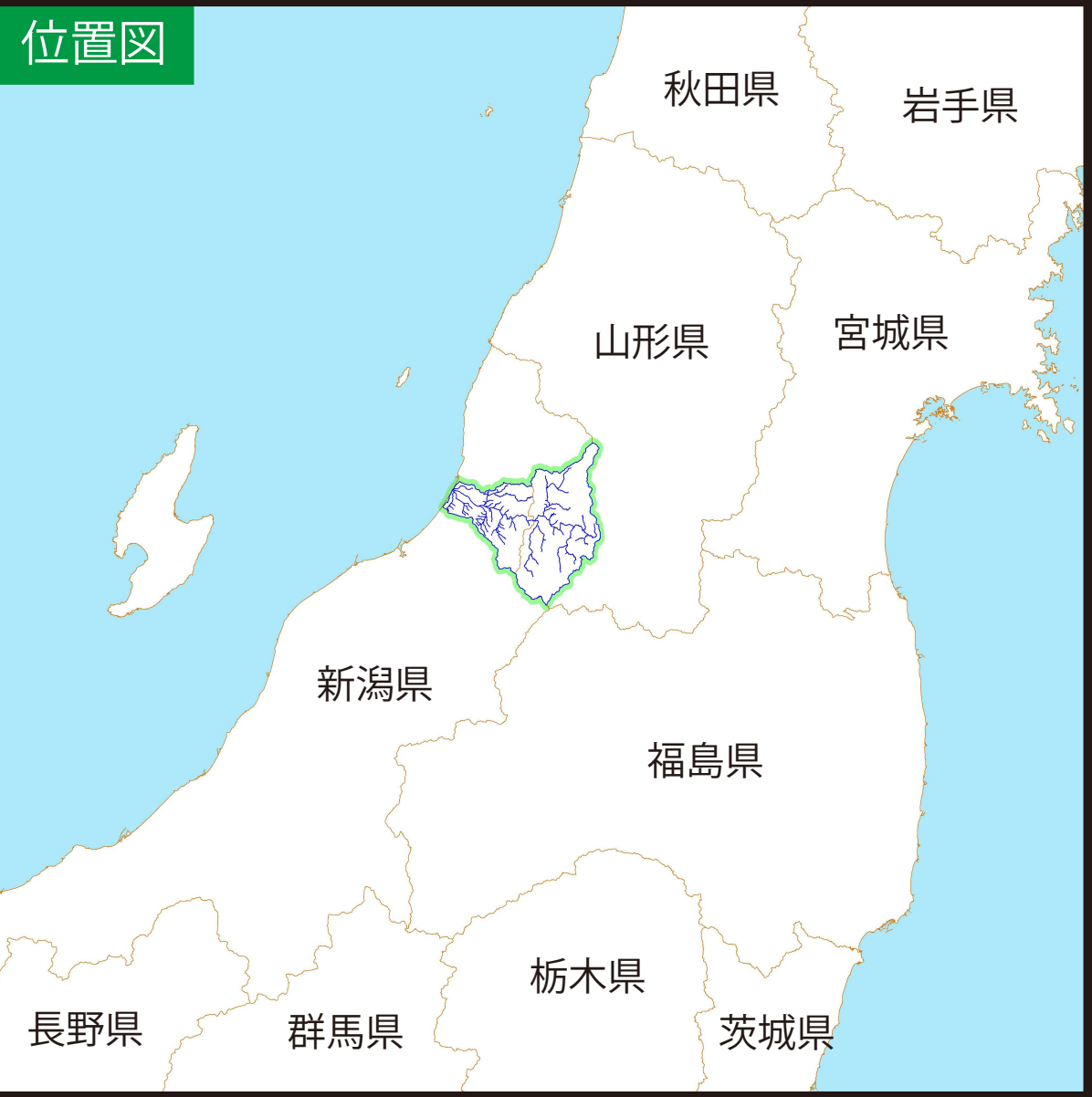
凡 例

- 高頻度 (1/10)
- 中高頻度 (1/30)
- 中頻度 (1/50)
- 中低頻度 (1/100)
- 想定最大規模
- 人口集中 (DID) 地区
- 自治体庁舎
- 警察・消防
- 病院
- 排水機場
- インターチェンジ
- 第 1 次緊急輸送道路
- 第 2 次緊急輸送道路
- 市町村界
- 流域界
- 鉄道
- 河川等範囲
- 大臣管理区間
- 県管理区間



国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所

1 : 30000
2000 0 1000 2000 4000 6000m



- 説明文
(1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率 1/10、1/30、1/50、1/100、の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水深 50cm（床上浸水相当）以上）を示した図面です。
(2) この水害リスクマップは、[現況] の荒川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率 1 / 10（毎年、1 年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1 / 10（10%））、年超過確率 1 / 30（毎年、1 年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1 / 30（3%））、年超過確率 1 / 50（毎年、1 年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1 / 50（2%））、年超過確率 1 / 100（毎年、1 年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1 / 100（1%））の降雨に伴う洪水により荒川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
(3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（S42 年 8 月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
(4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき [令和 12 年 1 月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。]
- 基本事項等
(1) 公表年月日 令和 4 年 12 月 14 日
(2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北陸地方整備局
・羽越河川国道事務所：荒川水系荒川
(3) 実施区間
【羽越河川国道事務所】
・荒川
左岸：新潟県岩船郡関川村大字下川口 5 5 7 番の 1 地先から海まで
右岸：新潟県岩船郡関川村大字湯沢字湯沢山国有林 4 0 2 林班地先から海まで
- 算出の前提となる降雨
・年超過確率 1 / 10（荒川流域の 24 時間の総雨量 248mm）
・年超過確率 1 / 30（荒川流域の 24 時間の総雨量 348mm）
・年超過確率 1 / 50（荒川流域の 24 時間の総雨量 382mm）
・年超過確率 1 / 100（荒川流域の 24 時間の総雨量 431mm）
- 河道条件：[現況]
- 関係市町村 村上市、胎内市、関川村
- その他計算条件等（計算メッシュ、地盤高メッシュ等について必要に応じて記述）
ア）氾濫計算は、対象区域を 25m メッシュ（計算メッシュという）に分割して、これを 1 単位として計算しています。
イ）計算メッシュの地盤高は、航空レーザー測量による数値標高モデル等から求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響があらわされていない場合があります。
ウ）連続して大規模に盛土された道路や中小河川の堤防等については、氾濫水を左右することから計算メッシュにおいて平均地盤高とは別に扱い、その影響を考慮したシミュレーションを行っています。

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。